

- 人間学科
- 比較文化学科

人材養成等教育研究に係る目的

文学部は、学部創設以来、全人教育の理念のもと、地球市民として社会に貢献できる広い視野と柔軟な対応力を備えた人材育成を目指している。そのため、豊かな表現力、論理的思考力、コミュニケーション能力という社会人としての基礎力を養成するための学科構成およびカリキュラム編成を行っている。

人間学科は、現代社会が求める多彩な能力や広い視野を育成するために、「思想」、「心理」、「社会」、「倫理」、「教育」という5分野横断型のカリキュラムを用意している。導入期の人間について幅広く学ぶ段階から人間学演習（ゼミナール）を柱にした専門を極める段階へと発展的に学修を進め、人間を多面的に理解することができ、多様な社会でリーダーシップを発揮することのできる人材を養成する。

比較文化学科は、国際社会を「文化」という観点から研究し、世界の多様な文化・価値基準を知り、さらに自己のアイデンティティを確立することのできる資質・能力を養成することを目指している。国際社会で通用する高度な英語力を身につけることを共通目標とし、さらに「地域文化」、「国際交流」、「英語教職コース」の3領域で知識を深めていく。英語力の獲得と文化の理解・探究の段階的な深化を通して、豊かな表現力と行動力を持って現代社会に貢献する人材を育成する。

ディプロマ・ポリシー

文学部は、所定の課程で専門的知識を修得し、かつ言語力・思考力・コミュニケーション能力を社会で活用できると認められる者に、学位を授与する。

- (1) 人間および人間が創り出したさまざまな文化について幅広い視野をもち、多面的に理解できる。(知識・理解)
- (2) 個人や文化の多様性を認め、人間と諸文化に対する自らの関心を深めて見解を形成できる。(思考・判断)
- (3) 人間や文化について関心を持ち、自ら課題を設定し、問題解決のため地球市民の一人として行動できる。(関心・意欲・態度)
- (4) 自らの考察・研究の成果を、口頭あるいは文書で論理的に表現することができる。(技能・表現)
- (5) 社会で通用する英語運用能力を数値で証明することができる。(技能・表現)